

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員			鳥海 崇先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60 (2)	授業回数	30
スポーツ鍼灸									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) スポーツ現場や治療院等で鍼灸施術経験のある専任教員が、スポーツ傷害について身体各部位で起こりうる疾患を想定し、評価の考え方・治療の考え方を習得する授業を行なう。 スポーツ鍼灸という分野であるが、一般患者にも通じる評価方法・治療法であることを考え受講してほしい。 応用実技であるため、今まで受講した他の授業を復習し、自ら考えるよう授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕 スポーツ鍼灸の考え方を学び、治療までの流れを習得する。 評価の流れを考え、模倣できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法(医道の日本社)					〔準備学習・時間外学習〕 1,2年次の知識の復習をし授業に臨むこと。授業後は、その都度、内容の確認をし復習し技術の定着を確認すること。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	運動鍼の方法と実践①	いくつかの運動鍼の方法を理解できる。 自動運動による運動鍼を実践できる。							
2	運動鍼の方法と実践②	他動運動による運動鍼を実践できる。							
3	M-testについての考え方と実践①	M-testの考え方を理解できる。							
4	M-testについての考え方と実践②	M-testの評価方法を理解・実践できる。							
5	スポーツ東洋療法と手技療法について	教本P2～62の理解基本徒手手技ができる							
6	頭板状筋・頸板状筋・肩甲挙筋の低周波鍼通電*レポート課題	板状筋・肩甲挙筋の走行を理解し刺鍼できる。							
7	状筋・頸板状筋・肩甲挙筋の低周波鍼通電*レポート課題	頸部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。							
8	頸部のスポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療)顔面神経・斜角筋群の低周波鍼通電 *レポート課題	頸部の評価を実践し、関節への治療を模倣できる。 顔面Nの走行・斜角筋の位置をを理解し刺鍼できる。							
9	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。							
10	スポーツ東洋療法とコンディショニングについて	教本P63～85の理解上肢の簡単なストレッチングができる							
11	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)肩甲帯筋の低周波鍼通電 *レポート課題	肩部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。 棘上筋・棘下筋・小円筋・大円筋の位置を理解し安全に刺鍼出来る							
12	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)三角筋・大菱形筋・小菱形筋の低周波鍼通電*レポート課題	三角筋の走行を理解し刺鍼できる。菱形筋の位置を理解し安全に刺鍼できる。							
13	肩部・上肢スポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療)(評価をふまえた局所治療)胸郭出口症候群(TOS)の考え方 評価と治療	肩部の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。							
14	上肢の低周波鍼通電*レポート課題	上腕二頭筋・上腕三頭筋と前腕筋群の走行を理解し刺鍼できる							
15	スポーツ東洋療法とコンディショニングについて	教本P86～105の理解下肢の簡単なストレッチングができる							
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。試験は8回目、30回目の確認テスト(各50点)で評価する。授業の状況を鑑みもう1つ試験を入れることもある。評価は学則規定に準ずる。*上記テストについてはレポート課題提出とその評価が6割以上の評価を得られたもののみ採点を行う。					〔特記事項〕 リスクを考えた上で授業に取り組むこと。リスクが少しでも考えられる刺鍼は必ず担当教員のアドバイスを求めること。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科	学年	3	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名					鳥海 崇先生			
スポーツ鍼灸	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60 (2)	授業回数	30
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>スポーツ現場や治療院等で鍼灸施術経験のある専任教員が、スポーツ傷害について身体各部位で起こりうる疾患を想定し、評価の考え方・治療の考え方を習得する授業を行なう。 スポーツ鍼灸という分野であるが、一般患者にも通じる評価方法・治療法であることを考え受講してほしい。 応用実技であるため、今まで受講した他の授業を復習し、自ら考えるよう授業に臨んでほしい。</p>								
<p>〔到達目標〕</p> <p>スポーツ鍼灸の考え方を学び、治療までの流れを習得する。 評価の流れを考え、模倣できるようになる。</p>								
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法 (医道の日本社)</p>				<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>1,2年次の知識の復習をし授業に臨むこと。授業後は、その都度、内容の確認をし復習し技術の定着を確認すること。</p>				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
16	股関節のスポーツ疾患(評価と治療(筋への局所治療)梨状筋・坐骨神経の低周波鍼通電 *レポート課題			股関節の評価方法を実践でき、梨状筋の走行・深さを理解し刺鍼できる。坐骨神経の刺鍼部位を理解し刺鍼できる。				
17	股関節のスポーツ疾患(評価と治療(関節への局所治療と遠隔治療)			股関節の評価方法を実践し、局所・遠隔治療を模倣できる。				
18	腰背部のスポーツ疾患(筋への局所治療)			腰背部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。				
19	腰背部のスポーツ疾患(関節への局所治療)			腰背部の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。椎間・仙腸関節の理解し刺鍼できる				
20	腰背部のスポーツ疾患			股関節の動作改善を合わせた腰背部の治療を模倣できる				
21	確認テスト			テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。				
22	膝関節のスポーツ障害(腸脛靭帯炎・鷲足炎)*レポート課題			膝関節の慢性障害を理解し、対応する筋に治療を模倣できる。				
23	膝関節のスポーツ疾患(筋・関節への局所治療)			膝関節の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。				
24	膝関節のスポーツ疾患(筋・関節への局所治療)			膝関節の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。				
25	足関節・下肢のスポーツ疾患(長腓骨筋・短腓骨筋の低周波鍼通電 *レポート課題			足関節・下肢の評価方法を実践し、局所治療を模倣できる。				
26	スポーツ東洋療法と手技療法について			教本P106～133の理解下肢の簡単な徒手手技ができる				
27	スポーツ鍼灸と全身治療①			全身治療の方法を実践できる。				
28	スポーツ鍼灸と全身治療②			全身治療の方法を実践できる。				
29	スポーツ鍼灸と全身治療③			全身治療の方法を実践できる。				
30	確認テスト			テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。				
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は実技試験で行う。試験は3回確認テスト(各50点)を行い、そのうち点数の高い2回分の点数で評価する。評価は学則規定に準ずる。*上記テストについては原則、レポート課題提出とその評価が6割以上の評価を得られたもののみ</p>				<p>〔特記事項〕</p> <p>リスクを考えた上で授業に取り組むこと。リスクが少しでも考えられる刺鍼は必ず担当教員のアドバイスを求めること。</p>				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員 進藤千聖/鏡先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
臨床医学各論Ⅱ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んで欲しい。</p>									
〔到達目標〕									
<p>循環器疾患、血液・造血器疾患、神経疾患の知識を習得することを目標とする。 各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学各論(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習しておくこと。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	ガイダンス 第11章 神経疾患 解剖生理の復習			神経系における解剖学と生理学の復習を行いながら病態を考える。					
2	第11章 神経疾患 脳血管疾患			脳梗塞を中心に運動麻痺および感覚障害の病態を理解する。 脳塞栓・脳血栓を明確に区別できる。					
3	第11章 神経疾患 感染性疾患・脳脊髄腫瘍			感染症の基本症状をおさえつつ、感染部位による局所症状を理解する。					
4	第11章 神経疾患 基底核変性疾患			パーキンソン病を始めとした変性疾患について理解する。 錐体路・錐体外路系・小脳の連動を考え覚える。					
5	第11章 神経疾患 認知症性疾患・筋疾患			筋疾患については運動ニューロン疾患との区別を明確にする。					
6	第11章 神経疾患 運動ニューロン疾患			障害部位が上位または下位運動ニューロンなのが明確に理解した上で各疾患の特徴を捉えることができる。					
7	第11章 神経疾患 神経痛・機能的疾患			神経痛は各神経の走行を把握する。 頭痛(機能的疾患)の3種の特徴を区別すること。					
8	第11章 神経疾患 神経疾患まとめ			特に重要な疾患を中心に問題演習を行い、復習を行う。					
9	第9章 循環器疾患 心臓疾患、冠動脈疾患			心臓疾患、冠動脈疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
10	第9章 循環器疾患 動脈疾患、血圧異常			動脈疾患、血圧異常の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
11	第10章 血液・造血器疾患 赤血球疾患、白血球疾患			赤血球疾患、白血球疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
12	第10章 血液・造血器疾患 リンパ網内系疾患			リンパ網内系疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
13	要点整理。総復習			授業の振り返りを行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。					
14	要点整理。総復習			授業の振り返りを行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。					
15	評価試験 解説			授業の振り返りを行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間評価テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 プリント(データ)を配布し授業を行う。OneNote等のデジタルノートブックを活用しまとめ学習 (自分だけの参考書作り)を推奨する。また、メモを取るような習慣をつけ、まとめ学習に活かすこと。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員 進藤千聖/鏡 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
臨床医学各論Ⅱ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んで欲しい。</p>									
〔到達目標〕									
<p>リウマチ性疾患・膠原病、その他領域の疾患の知識を習得することを目標とする。 2年次より学んだ各疾患について、国家試験合格の為に十分な知識量を有することができる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学各論(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習しておくこと。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	第12章:リウマチ性疾患、膠原病 リウマチ性疾患・膠原病				リウマチ性疾患、膠原病の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
17	第12章:リウマチ性疾患、膠原病 膠原病 確認テスト				膠原病の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
18	第13章:その他の領域 小児科、一般外科 確認テスト				小児科、一般外科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
19	第13章:その他の領域 一般外科、麻酔科 確認テスト				一般外科、麻酔科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
20	第13章:その他の領域 婦人科疾患、皮膚科疾患 確認テスト				婦人科疾患、皮膚科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
21	第13章:その他の領域 眼科疾患、耳鼻科疾患 確認テスト				眼科疾患、耳鼻科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
22	第13章:その他の領域 精神科疾患、心療内科 確認テスト				精神科疾患、心療内科疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
23	臨床検査基準値 確認テスト				検査項目と各疾患の関係について理解できる。				
24	要点整理・過去問題・練習問題 感染症、消化器疾患、肝・胆・膵臓疾患 確認テスト				感染症、消化器疾患、肝・胆・膵臓疾患の問題について正答肢を選択することができる。				
25	要点整理・過去問題・練習問題 呼吸器疾患、内分泌疾患、代謝栄養疾患				呼吸器疾患、内分泌疾患、代謝栄養疾患の問題について正答肢を選択することができる。				
26	要点整理・過去問題・練習問題 整形外科疾患				整形外科疾患の問題について正答肢を選択することができる。				
27	要点整理・過去問題・練習問題 神経疾患				神経疾患の問題について正答肢を選択することができる。				
28	要点整理・過去問題・練習問題 循環器疾患、血液・造血器疾患				循環器疾患、血液・造血器疾患の問題について正答肢を選択することができる。				
29	要点整理・過去問題・練習問題 リウマチ性疾患、膠原病、その他の領域				リウマチ性疾患、膠原病、その他の領域の問題について正答肢を選択することができる。				
30	期末テスト				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は 筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員			東野 友寛先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>病院での勤務を経験してきた教員が、リハビリテーションの捉え方を理解し、どのような評価方法を行なうかの授業を行う。また、リハビリテーションとはどのような範疇をとらえているのかをみていき、評価方法の基礎を学ぶ。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>国家試験に向けての理解を深め、各疾患のリハビリテーションを学んで卒業後にも役立つアプローチを学ぶ。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
リハビリテーション医学(医歯薬出版)					小テストの事前準備として授業の復習は必ず行うことが望ましい				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	2年次に学んだリハビリテーション概論の復習			2年次の理解を確認					
2	脳卒中のリハビリテーション①			脳卒中のリハビリについて理解できる。					
3	脳卒中のリハビリテーション②			脳卒中のリハビリについて理解できる。					
4	脊髄損傷のリハビリテーション			脊損のリハビリについて理解できる。					
5	各疾患のリハビリテーション(切断について)を学ぶ/確認テスト①			切断について理解し、そのリハビリテーションを理解できる。					
6	各疾患のリハビリテーション(小児のリハビリテーションについて)を学ぶ			小児のリハビリテーションについて理解できる。					
7	各疾患のリハビリテーション(骨関節疾患のリハビリテーションについて)を学ぶ			骨関節疾患を理解し、そのリハビリテーションを理解できる。					
8	各疾患のリハビリテーション(関節リウマチのリハビリテーションについて)を学ぶ			関節リウマチについて理解し、そのリハビリテーションを理解できる。					
9	各疾患のリハビリテーション(末梢神経障害のリハビリテーションについて)を学ぶ			末梢神経障害について理解し、そのリハビリテーションを理解できる。					
10	各疾患のリハビリテーション(パーキンソン病、呼吸器疾患のリハビリテーションについて)を学ぶ/確認テスト②			パーキンソン病、呼吸器疾患を理解し、そのリハビリテーションを理解できる。					
11	各疾患のリハビリテーション(心疾患のリハビリテーションについて)を学ぶ			心疾患について理解し、そのリハビリテーションを理解できる。					
12	運動学の復習			2年次に学んだ運動学の習熟度を高めることができる。					
13	総復習をする①			リハビリテーション医学全般を復習し理解できる。					
14	総復習をする②			リハビリテーション医学全般を復習し理解できる。					
15	期末テスト			授業の振り返りを行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。					
〔評価について〕					〔特記事項〕				
筆記試験で評価を行なう。評価は学則規定に準ずる。確認テスト①確認テスト②期末テストで評価を行う。									

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員 藤井 優子先生			
授業科目名 東洋医学臨床論Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>長きにわたり東洋医学を通じ病院との連携医療を実践する教員が症候を現代医学的、東洋医学的にとらえ、診断・治療について考える能力を習得する授業を行う。 鍼灸の臨床現場に必須の能力であることを意識して授業に臨んでほしい。 様々な患者を想定し自分自身で考えながら授業に臨んでほしい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>症状を現代医学的、東洋医学的に理解し、診断、治療方針の組み立てができる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 東洋医学臨床論(医道の日本)					〔準備学習・時間外学習〕 臨床医学各論や東洋医学概論の知識を必要とするため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし理解を深めることが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	肩こり 現代医学・東洋医学の考え方				肩こりを現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。				
2	頸肩腕痛 現代医学・東洋医学の考え方				頸肩腕痛を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。				
3	肩関節痛 現代医学・東洋医学の考え方				肩関節痛を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。				
4	上肢痛 現代医学・東洋医学の考え方				上肢痛を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。				
5	腰下肢痛 現代医学・東洋医学の考え方				腰下肢痛を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。				
6	膝痛 現代医学・東洋医学の考え方				膝痛を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。				
7	運動麻痺 現代医学・東洋医学の考え方				運動麻痺を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。				
8	確認テスト・解説				効果測定により、習熟度の確認ができる。				
9	スポーツ障害(1) 現代医学の考え方				スポーツ障害を現代医学的に理解し治療方針の組み立てができる。				
10	スポーツ障害(2) 東洋医学の考え方				スポーツ障害を東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。				
11	整形外科領域の総復習				整形外科疾患の東洋医学的・西洋医学的なアプローチを考えることができる。				
12	整形外科領域の総復習				整形外科疾患の東洋医学的・西洋医学的なアプローチを考えることができる。				
13	整形外科領域の総復習				整形外科疾患の東洋医学的・西洋医学的なアプローチを考えることができる。				
14	整形外科領域の総復習				整形外科疾患の東洋医学的・西洋医学的なアプローチを考えることができる。				
15	期末テスト・総復習				期末試験で習熟度の確認を行う。不足知識を補うことができる。				
〔評価について〕 筆記試験で評価を行なう。評価は学則規定に準ずる。 確認テスト・期末テストで評価する					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員 藤井 優子先生			
授業科目名 東洋医学臨床論Ⅱ		必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数	30
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>長きにわたり東洋医学を通じ病院との連携医療を実践する鍼灸師が、症候を現代医学的、東洋医学的にとらえ、診断・治療について考える能力を習得する授業を行う。 鍼灸の臨床現場に必須の能力であることを意識して授業に臨んでほしい。 様々な患者を想定し自分自身で考えながら授業に臨んでほしい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>症状を現代医学的、東洋医学的に理解し、診断、治療方針の組み立てができる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 東洋医学臨床論(医道の日本社)					〔準備学習・時間外学習〕 臨床医学各論や東洋医学概論の知識を必要とするため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし理解を深めることが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	総復習(1)			症例を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。					
2	総復習(2)			症例を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。					
3	総復習(3)			症例を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。					
4	総復習(4)			症例を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。					
5	総復習(5)			症例を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。					
6	総復習(6)			症例を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。					
7	総復習(7)			症例を現代医学的・東洋医学的に理解し治療方針の組み立てができる。					
8	確認テスト 解説			テストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。					
9	症例演習①			模擬症例をもとに弁証が立てることができる。正しい治療穴を選択できる。					
10	症例演習②			模擬症例をもとに弁証が立てることができる。正しい治療穴を選択できる。					
11	症例演習③			模擬症例をもとに弁証が立てることができる。正しい治療穴を選択できる。					
12	症例演習④			模擬症例をもとに弁証が立てることができる。正しい治療穴を選択できる。					
13	症例演習⑤			模擬症例をもとに弁証が立てることができる。正しい治療穴を選択できる。					
14	症例演習⑥			模擬症例をもとに弁証が立てることができる。正しい治療穴を選択できる。					
15	期末試験			期末試験で習熟度の確認を行う。不足知識を補うことができる。					
〔評価について〕 筆記試験で評価を行なう。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員 印南 秀先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
臨床はりきゅう実技									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床現場で様々な疾患の施術を行っている教員が、WHOで定める鍼灸適応疾患に対して、疾患の概要・評価・治療法を実技形式で教授する。 EBMに基づいた(学術論文や学会などで発表された)治療法を提示し実践する。 様々な疾患に対しての知識・技術を習得する心構えを持って望んで欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>様々な疾患に対して、根拠に基づく治療を理解し、実践できる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕 授業外で自己研鑽し技術習得に努める。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	基礎技術の再習得				鍼治療の基礎となる、押手・刺手・立ち位置の再習得を行う。				
2	トリガーポイント刺鍼				トリガーポイントの触診を習得し、正確に刺鍼できるようになる。				
3	頭部・顔面部への刺鍼				三叉神経痛・後頭神経痛患者を想定した、刺鍼を模倣できる。				
4	婦人科/泌尿器領域での鍼治療				婦人科領域で使用する評価法を理解し、治療を模倣できる。				
5	泌尿器科/婦人科領域での鍼治療				泌尿器科領域で使用する評価方法を理解し、治療を模倣できる。				
6	心療内科領域での鍼治療				心療内科領域で使用する評価方法を理解し、治療を模倣できる。				
7	背部への刺鍼①				临床上多くの患者に行う背部愈穴へ左右対称に正しく刺鍼できる。				
8	確認テスト				テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。				
9	スペシャルテスト①				認定実技に必要な技術の再獲得ができる。				
10	スペシャルテスト②				認定実技に必要な技術の再獲得ができる。				
11	はき実技				認定実技に必要な技術の再獲得ができる。				
12	はき実技				認定実技に必要な技術の再獲得ができる。				
13	はき実技				認定実技に必要な技術の再獲得ができる。				
14	はき実技				認定実技に必要な技術の再獲得ができる。				
15	COPDに対する鍼治療				COPDで使用する評価方法を理解し、治療を模倣できる。				
〔評価について〕 評価は実技試験又は筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 必要に応じてプリントをアップする。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実習	印南 秀先生		
臨床はりきゅう実技					時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床現場で様々な疾患の施術を行っている教員が、WHOで定める鍼灸適応疾患に対して、疾患の概要・評価・治療法を実技形式で教授する。EBMに基づいた(学術論文や学会などで発表された)治療法を提示し実践する。 また、基礎はりきゅうで学んだ治効理論を実践する。 様々な疾患に対しての知識・技術を習得する心構えを持って望んで欲しい。</p>								
<p>〔到達目標〕</p> <p>様々な疾患に対して、根拠に基づく治療を理解し、実践できる。</p>								
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕				
				授業外で自己研鑽し技術習得に努める。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
16	耳鼻科疾患に対する鍼治療			耳鼻科疾患とくに鼻疾患に対する評価法と治療を模倣できる。				
17	耳鼻科疾患に対する鍼治療			耳鼻科疾患とくにめまいに対する治療を理解し、模倣できる。				
18	仮性近視に対する鍼治療			仮性近視のメカニズムを理解し、治療法を模倣できる				
19	鍼鎮痛の効果			鍼鎮痛のメカニズムを復習し、実践できる。				
20	消化器領域の鍼治療			消化管に及ぼす鍼影響について知り、その効果を検証できる。				
21	消化器領域に鍼治療			便秘・下痢のメカニズムを理解し、鍼治療を模倣できる				
22	確認テスト			テストにより効果測定を行い、習得した知識の確認を行なう。				
23	神経パルス			末梢神経麻痺患者を想定し、神経パルスの方法を模倣できる。				
24	帯状疱疹後神経痛に対する鍼治療			帯状疱疹後神経痛に対する病態を理解し、治療法を模倣できる。				
25	アレルギー疾患に対する鍼治療			喘息の病態を理解し、鍼治療を模倣できる。				
26	アレルギー疾患に対する鍼治療			アトピーの病態を理解し、鍼治療を模倣できる。				
27	関節リウマチに対する鍼治療			関節リウマチの病態を理解し、鍼治療を模倣できる。				
28	難治性疾患に対する鍼治療			線維筋痛症の病態を理解し、鍼治療を模倣できる。				
29	保険請求のやり方			受療委任のシステムを理解できる				
30	期末テスト			テストにより効果測定を行い、習得した知識の確認を行う				
〔評価について〕				〔特記事項〕				
評価は実技試験又は筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。				必要に応じてプリントをアップする。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員 大石 知絵子先生			
授業科目名 東洋医学臨床実践		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数	30
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>中国に留学経験のある開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、東洋医学的な診断法を習得できる授業を行なう。またその診察法をもとに治療が出来るよう授業を行なうため、臨床現場に出てからのことを考えながら受講してほしい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>東洋医学的な診断方法を習得し、その診断から治療方針などをたてて実際に治療できるようになる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
はりきゅう実技基礎編(医道の日本)、東洋医学臨床論					授業外で自己研鑽し技術習得に努める。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	導入				中医学の概要と舌診・脈診について理解できる。				
2	舌診と脈診				舌診と脈診の臨床応用を理解できる。				
3	気虚証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる。				
4	気滞証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる。				
5	血虚証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる。				
6	血瘀証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる。				
7	陰虚証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる。				
8	痰飲証の治療				気血津液弁証の理解と治療の実践できる。				
9	確認テスト				筆記試験により知識の習熟を確認する。				
10	肝病の治療				臓腑弁証の理解と治療の実践ができる。				
11	心病の治療				臓腑弁証の理解と治療の実践ができる。				
12	脾病の治療				臓腑弁証の理解と治療の実践ができる。				
13	肺病の治療				臓腑弁証の理解と治療の実践ができる。				
14	腎病の治療				臓腑弁証の理解と治療の実践ができる。				
15	期末テスト				筆記試験により知識の習熟を確認する。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は実技試験又は筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。									

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員 大石 知絵子先生			
授業科目名 東洋医学臨床実践		必修/ 選択	必修	授業形態	実習	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
中国に留学経験のある開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、東洋医学的な診断法を習得できる授業を行なう。またその診察法をもとに治療が出来るよう授業を行なうため、臨床現場に出てからのことを考えながら受講してほしい。									
〔到達目標〕 治療のひとつの方法として東洋医学的な考えで治療が組み立てられるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕 授業外で自己研鑽し技術習得に努める。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	特殊鍼法				中国鍼の基本操作を実践できる。				
17	特殊鍼法				中国鍼の補瀉法を実践できる。				
18	特殊鍼法				中国鍼の補瀉法を実践できる。				
19	確認テスト				中国鍼の基本操作の定着をはかる。				
20	頭皮鍼法				朱氏頭皮鍼の基本操作を実践できる。				
21	頭皮鍼法				朱氏頭皮鍼の基本操作を実践できる。				
22	頭皮鍼法				朱氏頭皮鍼の基本操作を実践できる。				
23	特殊鍼法				皮内鍼法を実践できる。				
24	特殊鍼法				ラック灸を用いて督脈通陽法を実践できる。				
25	経筋学				経筋学の概要が理解できる。				
26	経筋学				手三陰経筋が理解できる。				
27	経筋学				手三陽経筋が理解できる。				
28	経筋学				足三陽経筋が理解できる。				
29	経筋学				足三陰経筋が理解できる。				
30	期末テスト				筆記試験により経筋学の知識定着をはかる。				
〔評価について〕 評価は実技試験又は筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員 今井 紀代子先生		
授業科目名 生理学Ⅲ		必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
鍼灸の教員が、医療の基礎となる生理学を各分野ごとに復習し、知識を深める授業を行う。 国家試験合格に直結することを意識して授業を受けて欲しい。								
〔到達目標〕 医療系を志す者にとっての基礎となる科目であり、他の応用科目の礎となる内容であるため、しっかり理解し、国家試験の問題を解くことができるようになる。								
〔使用教材、参考文献等〕 生理学[医歯薬出版]				〔準備学習・時間外学習〕 既に一度学習した内容であり、要点をまとめた形で進めるため、予め予習してくる。また確実に復習をし、理解を深めること。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	生理学の基礎を総合的に学ぶ			生理学の基礎の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
2	消化と吸収を総合的に学ぶ			消化と吸収の分野について理解することができる。				
3	代謝を総合的に学ぶ			代謝の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
4	内分泌を総合的に学ぶ			内分泌の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
5	生殖・成長と老化を総合的に学ぶ			生殖・成長と老化の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
6	神経(前半①)を総合的に学ぶ			神経(中枢神経)の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
7	神経(前半②)を総合的に学ぶ			神経(末梢神経)の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
8	神経(後半)を総合的に学ぶ			神経(自律神経)の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
9	確認テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
10	循環(血液)を総合的に学ぶ			循環(血液)の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
11	生体の防御機構を総合的に学ぶ			生体の防御機構の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
12	循環(心臓・血管)を総合的に学ぶ			循環(心臓)の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
13	呼吸を総合的に学ぶ			呼吸の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
14	体温を総合的に学ぶ			体温の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。				
15	期末テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。既に一度学習したことのある内容になるため、教科書はもちろん、これまでにこの分野を学んだ際に使用したノート・プリント等を持参し活用すること。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	専任教員		
認定実技(OSCE)Ⅱ					時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>鍼灸師養成に係わる様々な教員が、卒業規定のひとつである認定実技試験に合格できるための授業等を行う。臨床の現場でも必須となる内容であることを意識し受講してほしい。</p>								
<p>〔到達目標〕</p> <p>卒業後、臨床現場で速やかに行動できるよう、治療を行う上での流れ、患者への対応、治療方針を考える力を養う。</p>								
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕				
各授業、各教員の指示による ずっと使える！鍼灸臨床BOOK(滋慶出版)				医療面接をはじめ、検査法はすでに学習済みなので、実践形式で行える様、復習をすること。また、実技においては繰り返し練習すること。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 臨床実習、認定実技試験について			3年次に行く臨床実習および認定実技試験についての概要を理解する。				
2	医療面接の確認① 要点確認			医療面接の重要性・ポイントを理解する。				
3	医療面接の確認② 実践1			医療面接での質問必要項目を理解する。				
4	医療面接の確認③ 実践2			医療面接で必要項目を聞けるようになる。				
5	検査法の確認① 徒手検査			徒手検査の意義・重要性を理解する。				
6	検査法の確認② ROM			ROMの意義・重要性を理解する。				
7	検査法の確認③ 検査法ブースの内容総復習1			徒手検査・ROMなどを正確に行うことができるようになる。				
8	検査法の確認④ 検査法ブースの内容総復習2			徒手検査・ROMなどを正確に行うことができるようになる。				
9	人体施術の確認① 鍼実技			直刺・斜刺・横刺を正確に行うことができる。				
10	人体施術の確認② 灸実技			指定された艾炷の大きさで、透熱灸・知熱灸ができる。				
11	医療面接・検査法の復習			課題に従い、医療面接・検査法を正確に行うことができる。				
12	人体施術の確認③ 鍼灸実技			課題に従い、鍼および灸施術を正確に行うことができる。				
13	実技認定対策① 鍼灸実技			限られた時間内で医療面接・検査法を正確に行うことができる。				
14	実技認定対策② 鍼灸実技			限られた時間内で鍼および灸施術を正確に行うことができる。				
15	振り返り							
〔評価について〕 筆記・実技による試験、また課題提出をして評価とする				〔特記事項〕				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	3	開講区分	半期	担当教員 藤掛 雅博 先生			
授業科目名	東洋医学特論	必修/選択	必修	授業形態	講義/演習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法を知るには、人体の正常な構造を詳しく理解しておく必要がある。解剖学の国家試験問題の解法を展開し、応用力を養う。

[到達目標]

今まで学習した東洋医学の知識を統合させ、国家試験鍼灸治療に役立てられるようになる。

[使用教材、参考文献等]

新版東洋医学概論(医道の日本社)、新版経絡経穴概論(医道の日本社)

[準備学習・時間外学習]

授業は要点をまとめて進めるため、東洋医学概論と経絡経穴概論の復習は行うこと。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	第1章 東洋医学の特徴	東洋医学の特徴を理解する。
2	第1章 東洋医学の特徴	東洋医学の特徴を理解する。
3	第2章 生理と病	蔵象と病証を理解する。
4	第2章 生理と病	蔵象と病証を理解する。
5	第3章 東洋医学の思想	陰陽や五行を理解する。
6	確認テスト	1~5コマで習得した技術の再確認ができる。
7	第3章 東洋医学の思想	陰陽や五行を理解する。
8	第4章 四診	四診を理解する。
9	第4章 四診	四診を理解する。
10	第4章 四診	四診を理解する。
11	第5章 弁証論治	弁証論治を理解する。
12	第5章 弁証論治	弁証論治を理解する。
13	第5章 弁証論治	弁証論治を理解する。
14	期末テスト	問題の解法が導きだせるようになる。
15	解答解説	期末試験の解答解説を行う。

[評価について]

評価は 筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科	学年 3	開講区分 半期	担当教員 藤掛 雅博先生		
授業科目名 解剖学Ⅲ	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法を知るには、人体の正常な構造を詳しく理解しておく必要がある。解剖学の国家試験問題の解法を展開し、応用力を養う。

[到達目標]

今まで学習した解剖学の知識を統合させ、国家試験鍼灸治療に役立てられるようになる。

[使用教材、参考文献等]

「解剖学 第2版」
社団法人東洋療法学校協会編 医歯薬出版

[準備学習・時間外学習]

必ず復習をすること。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	第2章 循環器系①	心臓の構造を理解する。
2	第2章 循環器系②	動脈系の構造を理解する。(胎児循環を含む)
3	第2章 循環器系③	静脈系の構造を理解する。
4	第2章 循環器系④	リンパ系の構造を理解する。
5	確認テスト	1～4で習得した知識の再確認ができる
6	第9章 感覚器系	視覚器、平衡聴覚器の構造を理解する。
7	第9章 感覚器系	視覚器、平衡聴覚器の構造を理解する。
8	第5章 泌尿器系	腎臓、尿路の構造を理解する。
9	第5章 泌尿器系	腎臓、尿路の構造を理解する。
10	第6章 生殖器系	女性生殖器、男性生殖器の構造を理解する。
11	第4章 消化器系	上部消化管の構造を理解する。
12	第5章 消化器系	下部消化管、消化腺の構造を理解する。
13	第6章 消化器系	総復習をする
14	期末テスト	問題の解法が導きだせるようになる。
15	期末テスト解説	期末試験の解答解説を行う。

[評価について]

評価は 筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員 藤掛 雅博/今井紀代子先生			
授業科目名 総合基礎特講		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法を知るには、人体の正常な構造を詳しく理解しておく必要がある。解剖学を中心に展開し、応用力を養う。									
〔到達目標〕									
今まで学習した解剖学の知識を統合させ、国家試験・鍼灸治療に役立てられるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 「解剖学 第2版」 社団法人東洋療法学校協会編 医歯薬出版					〔準備学習・時間外学習〕 必ず復習をすること。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	第9章 神経系				神経系の構成、脳神経を理解する。				
2	第9章 神経系				伝導路の構造を理解する。				
3	第9章 神経系				中枢神経の構造を理解する。				
4	第9章 神経系				脊髄神経の構造を理解する。				
5	第9章 神経系				自律神経の構造を理解する。				
6	確認テスト				1～5コマで習得した技術の再確認ができる。				
7	第4章 循環障害				循環障害を理解する。				
8	第5章 退行性病変				退行性病変を理解する。				
9	第5章 退行性病変				退行性病変を理解する。				
10	第7章 炎症				炎症を理解する。				
11	第8章 腫瘍				腫瘍を理解する。				
12	第9章 免疫異常・アレルギー				免疫とアレルギーを理解する。				
13	第10章 先天性異常				先天性異常を理解する。				
14	期末テスト				問題の解法が導きだせるようになる。				
15	解答解説				期末試験の解答解説を行う。				
〔評価について〕 評価は 筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員 藤掛 雅博/今井紀代子先生			
授業科目名 総合基礎特講		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法を知るには、人体の正常な構造を詳しく理解しておく必要がある。生理学を中心に展開し、応用力を養う。									
〔到達目標〕									
今まで学習した生理学の知識を統合させ、国家試験・鍼灸治療に役立てられるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 生理学[医歯薬出版]					〔準備学習・時間外学習〕 既に一度学習した内容であり、要点をまとめた形で進めるため、予め予習してくる。また確実に復習をし、理解を深めること。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
16	呼吸を総合的に学ぶ			呼吸の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。					
17	消化と吸収を総合的に学ぶ			消化と吸収の分野について理解することができる。					
18	消化と吸収・代謝を総合的に学ぶ			消化と吸収・代謝の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。					
19	代謝・体温を総合的に学ぶ			代謝・体温の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。					
20	感覚を総合的に学ぶ			感覚の分野について理解することができる。					
21	感覚・身体活動の協調を総合的に学ぶ			感覚・身体活動の協調の分野について理解し、国家試験の問題を解くことができる。					
22	はりきゅう理論：鍼について総合的に学ぶ			鍼について理解できる。					
23	はりきゅう理論：灸について総合的に学ぶ			灸について理解できる。					
24	確認テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
25	はりきゅう理論：鍼灸の治効理論を総合的に学ぶ① (9章)			鍼灸の治効理論(9章)を理解できる。					
26	はりきゅう理論：鍼灸の治効理論を総合的に学ぶ② (9章)			鍼灸の治効理論(9章)の国家試験の問題を解くことができる。					
27	はりきゅう理論：鍼灸の治効理論を総合的に学ぶ③ (10章)			鍼灸の治効理論(10章)を理解できる。					
28	はりきゅう理論：鍼灸の治効理論を総合的に学ぶ④ (10章)			鍼灸の治効理論(10章)の国家試験の問題を解くことができる。					
29	はりきゅう理論：鍼灸の治効理論を総合的に学ぶ⑤ (11章)			鍼灸の治効理論(11章)を理解でき、国家試験の問題を解くことができる。					
30	期末テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 筆記試験で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。 既に一度学習したことのある内容になるため、教科書はもちろん、これまでにこの分野を学んだ際に使用したノート・プリント等を持参し活用すること。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員 小池 俊治先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
特殊はりきゆう実技									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>古代九鍼の継承と実践を行う団体に所属する鍼灸師が、毫鍼だけでなく刺絡鍼法・火鍼などの特殊鍼法を実技で実践する授業を行なう。実技と合わせて、中医弁証の実際についても講義を行い、証を立てて治療方針を立てられるようにする。</p> <p>九鍼の考え方、実際の使用方法に至るまでを学習、実践できるようになる。また、渡洋医学概論・臨床論の復習を行い、自分の力で症例を解いて、治療方針を立てられるようになる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 東洋医学概論 ビジュアルでわかる九鍼実技解説					〔準備学習・時間外学習〕 実技に関しては、特殊な鍼法なので、授業に集中すること。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	ガイダンス 中医基礎理論の全体構造 毫鍼実技				中医基礎理論の全体像が理解できる。				
2	症例トレーニング① 毫鍼実技				手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。				
3	症例トレーニング② 毫鍼実技				手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。				
4	症例トレーニング③ 毫鍼実技				手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。				
5	症例トレーニング④ 毫鍼実技				手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。				
6	症例トレーニング⑤ 毫鍼実技				手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。				
7	確認テスト				筆記試験で効果測定を行なう。				
8	刺絡についての講義と実技①				刺絡についての理解を深めることができる。				
9	刺絡の実技②				刺絡についての理解を深めることができる。				
10	刺絡の実技③				刺絡の実技が出来るようになる。				
11	刺絡の実技④				刺絡の実技が出来るようになる。				
12	火鍼についての講義と実技①				火鍼についての理解を深めることができる。				
13	火鍼の実技②				火鍼の実技が出来るようになる。				
14	総合実技				これまで学んだ実技を組み合わせる治療ができる。				
15	期末テスト				筆記試験で効果測定を行なう。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 必要に応じプリントが配布される。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員			深山 俊先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
現代の疾病は複雑であり多様化しているため、医療も様々な角度から必要になる。こうしたことから、鍼灸師もより高度な技術や知識が求められる。臨床医学各論を様々な科目と組み合わせ、理解を深めていく講義を徹底する。									
〔到達目標〕									
臨床医学各論、臨床医学総論を理解するために、国家試験問題を基礎に臨床でも役立てることができる知識を習得することを目標とする。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
臨床医学総論(医歯薬出版) 臨床医学各論(医歯薬出版第2版)					必ず復習をすること。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	第6章 内分泌疾患				分泌過剰と分泌抑制の症状を理解する。				
2	第4章 呼吸器疾患				呼吸器の疾患を理解する。				
3	第2章 消化管疾患				消化器疾患を理解する。				
4	第3章 肝・胆・膵疾患				肝臓、胆のう、膵臓の疾患を理解する。				
5	第5章 腎・尿器疾患 第7章 代謝・栄養疾患				腎から尿器までの構造と機能を復習し、疾患を理解する。				
6	確認テスト				1～5コマで習得した技術の再確認ができる。				
7	第8章 整形外科疾患				関節疾患、骨腫瘍、筋・腱疾患、形態異常、脊椎疾患を理解する。				
8	第8章 整形外科疾患				骨代謝性疾患、脊髄損傷と外傷、その他の整形外科疾患を理解する。				
9	第12章 リウマチ性疾患・膠原病				リウマチ性疾患、膠原病について理解する。				
10	第13章 その他の領域				皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患を理解する。				
11	第13章 その他の領域				一般外科、麻酔科、婦人科疾患を理解する。				
12	第13章 その他の領域				小児科疾患、精神科疾患、心療内科を理解する。				
13	第1章 感染症				病原微生物の種類を区別することができるようになる。				
14	期末試験				問題の解法が導きだせるようになる。				
15	解答解説				期末試験の解答解説を行う。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は 筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	通年	担当教員 各実習地指導者又は専任教員		
授業科目名 臨床実習Ⅱ		必修/ 選択	必修	授業形態	実習	時間数 (単位)	90 (2)	授業回数 —
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>5年以上開業ならびに5年以上の臨床経験を持ち、講習会を受講しているまたは専任教員資格を有する実習指導者が、鍼灸師のスペシャリストを目指すために、患者接遇や院内コミュニケーションの重要性を取得する実習を行なう。鍼灸師としてのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことは何かを考えながら実習してほしい。実習となるため、報告・連絡・相談を忘れず実習に臨んでほしい。</p>								
<p>〔到達目標〕</p> <p>挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、鍼灸施術所で必要なコミュニケーションができる。 院内業務を理解し、実習指導者に適切な質問ができる。 デイリーノートをしっかりと記載し、自身の課題を把握できる。</p>								
〔使用教材、参考文献等〕 デイリーノート				〔準備学習・時間外学習〕 コミュニケーションの基礎や実習前教育で学んだ内容を復習し実習に臨むこと。またその日のうちにその日の振り返りをし、次の実習に備えること。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
2	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
3	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
4	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
5	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
6	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
7	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
8	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
9	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
10	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
11	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
12	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
13	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
14	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
15	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける				
〔評価について〕 評価は別途評価表で行なう。 評価は現場実習評価、レポート・実習後評価の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科	学年	3	開講区分	半期	担当教員 山田 英史先生/藤掛雅博先生		
授業科目名 はきの適応判断学	必修/選択	必修	授業形態	演習	時間数(単位)	30 (1)	授業回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>開業している鍼灸師(教員免許所有)が様々な疾患を想定した症例をもとに、あはきの適否を判断する授業を行う。学生は、レッドフラッグを理解し、卒後の臨床に備える。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>あはきの適否が判断できる。(レッドフラッグを知る) 様々な疾患を想定できるような知識を習得する。</p>							
〔使用教材、参考文献等〕 配布プリントにて対応				〔準備学習・時間外学習〕 症状や所見による病態の鑑別が必要となるため、臨床医学各論の復習を事前に済ましておく。 臨床に必要な知識なので定着するまで復習を行うことが望まし			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)			
1	肩こり(狭心性)			狭心性を含めた心疾患の症状を把握し、肩こりを起こす病態を鑑別し鍼灸の適否を判断できる。			
2	肩こり(乳癌)			乳癌の症状・所見を把握し、肩こりを起こす病態を鑑別し、鍼灸の適否を判断できる。			
3	背部痛(脊髄腫瘍)			脊髄腫瘍(転移性も含む)の症状と所見を把握し、背部痛を起こす病態を鑑別し、鍼灸の適否を判断できる。			
4	背部痛(自然気胸)			自然気胸の症状や所見を把握し、背部痛をおこす病態を鑑別し鍼灸の適否を判断できる。			
5	腰背部痛(尿路結石)			尿路結石を含めた腎疾患の症状・所見を把握し、腰背部痛を起こす病態を鑑別し鍼灸の適否を判断できる。			
6	腰痛(胃癌)			胃癌を含めた転移癌の症状・所見を把握し、腰痛の起こる病態を鑑別し、鍼灸の適否を判断できる。			
7	腹痛(腸閉塞)			腸閉塞の症状・所見を把握し、腹痛の起こる病態を鑑別し、鍼灸に適否が判断できる。			
8	確認テスト・解説			テストにより効果測定を行い、解説を加えることで習熟度を高める。			
9	兎径部痛(悪性リンパ腫)			悪性リンパ腫の症状・所見を把握し、兎径部痛を起こす病態を鑑別し、鍼灸の適否を判断できる。			
10	間歇性跛行(脊柱管狭窄症と閉塞性動脈硬化症)			間歇性跛行とその随伴症状や所見を把握し間歇性跛行を起こす病態を鑑別し鍼灸の適否を判断できる。			
11	頭痛(脳梗塞)			脳血管障害の症状・所見を把握し、頭痛を起こす病態を鑑別し鍼灸の適否を判断できる。			
12	うつ病と紛らわしい疾患(慢性硬膜下血腫)			うつ病の症状や慢性硬膜下血腫の症状・所見を把握し、症状を引き起こす病態を鑑別し、鍼灸の適否を判断できる。			
13	ふらつき(脊髄小脳変性症)			脊髄小脳変性症や動脈瘤の症状・所見を把握し、歩行時のふらつきを起こす病態を鑑別し、鍼灸の適否を判断できる。			
14	耳鳴り(突発性難聴)			突発性難聴とメニエール病の症状・所見を把握し、耳鳴りを起こす病態を鑑別し、鍼灸の適否を判断できる。			
15	期末テスト・解説			テストにより効果測定を行い、解説を加えることで習熟度を高める。			
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト・期末テストの合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。			

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員			鏡先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>鍼灸の教員免許を有する教員が、あん摩・マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関わる法律について/関係法規について講義形式で行う。</p>									
<p>[到達目標]</p> <p>あはき業に従事する上で理解しておくべき法令を学び、医療従事者としての知識を深めることを目的とする。</p>									
[使用教材、参考文献等] 関係法規(医歯薬出版)					[準備学習・時間外学習] 臨床上必要な知識であるため、予習復習を行い知識定着に努める。				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 「法とは何か」「あはき法の法制定の目的」				医療関係の法の目的について理解できる。				
2	あはき法 免許と試験				免許の要件や試験について理解できる。				
3	あはき法 業務①				業務の範囲や施術所の要件を理解できる。				
4	あはき法 業務②				広告の制限や医療行為について理解できる。				
5	あはき法 学校・養成施設、罰則について				学校の教育内容、施設などについて理解し罰則について理解できる。				
6	関係法規 医療法				医療法規の概要を把握することができる。				
7	医師法 その他の医療従事者に関する法律				医師法について理解し、医療従事者の資格法の差異を理解することができる。				
8	薬事法規 保健一般に関する法律 確認テスト				医薬品、医療機器等の有効性及び安全性確保に関する法律を理解することができる。				
9	衛生に関する法律				母体保護法や精神障害者福祉に関する法律を理解することができる。				
10	社会福祉関係法規				社会福祉法の概要を把握することができる。				
11	健康保険法、国民健康保険法				健康保険法と国民健康保険法の差異を理解することができる。				
12	高齢者の医療 介護保険法				高齢者の医療に関する法律と介護保険法の概要を理解することができる。				
13	生活保護法 医療保険制度				わが国の医療保険制度を理解する。				
14	要点整理 総復習				関係法規全般を復習し、習熟度を高めることができる。				
15	期末テスト 復習				テストにより効果測定を行い、解説によって理解を深めることができる。				
[評価について] 筆記試験にて評価を行う。評価は学則規定に準ずる。					[特記事項]				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員	専任教員 ほか		
授業科目名	総合スポーツ演習Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>鍼灸師×スポーツ(生涯スポーツ・競技スポーツ)の知見を有する教員が、現場に必要な知識・技術を伝える。現場や治療院での患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。</p>										
<p>[到達目標]</p> <p>患者に合わせた運動プログラムの作成ができるようになる。 スポーツの競技特性が理解できるようになる。</p>										
[使用教材、参考文献等]					[準備学習・時間外学習]					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)					
1	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成				高齢者の運動指導・提案ができるようになる。					
2	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成				高齢者の運動指導・提案ができるようになる。					
3	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成				高齢者の運動指導・提案ができるようになる。					
4	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成 確認テスト				高齢者の運動指導・提案ができるようになる。					
5	競技スポーツ×鍼灸				競技特性を理解し、鍼灸治療に応用できる					
6	競技スポーツ×鍼灸				競技特性を理解し、鍼灸治療に応用できる					
7	競技スポーツ×鍼灸				競技特性を理解し、鍼灸治療に応用できる					
8	競技スポーツ×鍼灸				競技特性を理解し、鍼灸治療に応用できる					
9	競技スポーツ×鍼灸				競技特性を理解し、鍼灸治療に応用できる					
10	競技スポーツ×鍼灸				競技特性を理解し、鍼灸治療に応用できる					
11	競技スポーツ×鍼灸				競技特性を理解し、鍼灸治療に応用できる					
12	競技スポーツ×鍼灸				競技特性を理解し、鍼灸治療に応用できる					
13	競技スポーツ×鍼灸				競技特性を理解し、鍼灸治療に応用できる					
14	競技スポーツ×鍼灸				競技特性を理解し、鍼灸治療に応用できる					
15	期末テスト・解説				テストにより効果測定を行い、解説を加えることで習熟度を高める。					
<p>[評価について]</p> <p>評価は筆記試験またはレポートで行う。 筆記試験は確認テスト・期末テストの合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>[特記事項]</p> <p>通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。</p>					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員			東路子先生/進藤千聖先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
実践はりきゆう実技									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床上、遭遇する可能性の高い症例を中心に鑑別トレーニングを行う。情報収集・検査・鑑別・治療計画・施術・カルアの記載など一連の流れが一人で行えるようにトレーニングを行う。学生は、安全に施術できる技能の習得と鑑別・治療に関連する科目に関する情報の整理を事前しておくこと</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>ルーブリック評価をに従い、1情報収集能力 2患者対応能力 3客観的評価 4技能 5書類作成の 5項目を4段階評価で行う。すべての項目をBレベル以上でクリアすること。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 練習用動画、配布資料					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	概要説明	科目で履修する内容や到達目標、リスク管理について理解する							
2	症例検討	西洋医学・東洋医学的な鑑別方法について学ぶ。提示された症例に対する治療法を実践する。							
3	症例検討	西洋医学・東洋医学的な鑑別方法について学ぶ。提示された症例に対する治療法を実践する。							
4	症例検討	西洋医学・東洋医学的な鑑別方法について学ぶ。提示された症例に対する治療法を実践する。							
5	症例検討	西洋医学・東洋医学的な鑑別方法について学ぶ。提示された症例に対する治療法を実践する。							
6	症例検討	西洋医学・東洋医学的な鑑別方法について学ぶ。提示された症例に対する治療法を実践する。							
7	症例検討	西洋医学・東洋医学的な鑑別方法について学ぶ。提示された症例に対する治療法を実践する。							
8	症例検討	西洋医学・東洋医学的な鑑別方法について学ぶ。提示された症例に対する治療法を実践する。							
9	症例検討	症例動画を視聴し、西洋医学・東洋医学それぞれの病態把握を行い、治療方針を立てる。							
10	治療準備、シミュレーション	模擬患者に対する治療実習に向けて、治療シミュレーションをチームごとに行い、治療計画を立てる。							
11	治療実習	治療計画に基づいて鍼灸治療を実践する。カルテをデータに入力を行う。							
12	まとめ	治療実習を振り返り、改善点を洗い出し次回の治療計画を立てる。							
13	治療実習	治療計画に基づいて鍼灸治療を実践する。カルテをデータに入力を行う。							
14	まとめ、発表準備	2回の治療実習を振り返り、改善点を洗い出す。発表に向けて資料作成を行う。							
15	発表	チームごとに治療実習での学びを発表する。							
〔評価について〕 発表、レポートで評価する。 評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 治療実習ではチームメンバー全員で役割分担を行い、模擬患者に負担なく治療効果 を上げること。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	演習/実習	専任教員			
卒業演習						時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>鍼灸の教員免許を有する専任教員が、臨床に必要な知識(基礎科目・臨床科目・臨床推論)を修得できるよう。講義や演習、ケーススタディなどを総合的に行う。</p>									
<p>[到達目標]</p> <p>基礎知識が向上し、症例に対する臨床推論ができるようになる。</p>									
[使用教材、参考文献等] 配布プリント					[準備学習・時間外学習] 临床上必要な知識であるため、予習復習を行い知識定着に努める。				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)				基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる				
2	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)				基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる				
3	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)				基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる				
4	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)				基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる				
5	臨床知識の習熟(臨床医学総論・各論・東洋医学臨床論)				臨床所見を基に疾患が特定できる。				
6	臨床知識の習熟(臨床医学総論・各論・東洋医学臨床論)				臨床所見を基に疾患が特定できる。				
7	臨床知識の習熟(臨床医学総論・各論・東洋医学臨床論)				臨床所見を基に疾患が特定できる。				
8	臨床知識の習熟(臨床医学総論・各論・東洋医学臨床論)				臨床所見を基に疾患が特定できる。				
9	ケーススタディー(西洋医学疾患)				症例を基に疾患推名・治療法を考察できる。				
10	ケーススタディー(東洋医学疾患)				症例を基に疾患推名・治療法を考察できる。				
11	臨床推論力向上講座				臨床所見を読み取り解剖・生理学的に解釈できる				
12	臨床推論力向上講座				臨床所見を読み取り解剖・生理学的に解釈できる				
13	臨床推論力向上講座				臨床所見を読み取り解剖・生理学的に解釈できる				
14	臨床推論力向上講座				臨床所見を読み取り解剖・生理学的に解釈できる				
15	臨床推論力向上講座				臨床所見を読み取り解剖・生理学的に解釈できる				
[評価について] 評価は成果物の提出や必死試験で行う。評価は学則規定に準ずる。					[特記事項]				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	3	開講区分	半期	担当教員 藤井 優子先生			
授業科目名 古典・経絡治療学		必修/ 選択	必修	授業形態	実習	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床現場で経絡治療を実践している鍼灸師(教員資格を有する)が古典鍼灸の考え方や診断方法について実技を交えて講義を行う。									
〔到達目標〕 診察から治療までの流れを理解し実践できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 経絡治療のすすめ(医道の日本社)					〔準備学習・時間外学習〕 臨床に応用できる知識・技術のため、復習を行い修得に努める				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	伝統鍼灸の概要 脈診①基礎(脈のとり方)				東洋医学の基礎的な考え方、陰陽論、西洋医学との違いを理解できる。				
2	脈診②祖脈				祖脈の意味、診方を理解し実践できる。				
3	脈診③六部定位				六部定位脈の診方を理解し実践できる。				
4	刺鍼①撚鍼法				撚鍼法で鍼を刺入することができる。正しい姿勢で行える。				
5	刺鍼② 刺鍼と脈の変化				祖脈、六部定位脈を基に69難配穴での脈の変化をみることができる。				
6	刺鍼③ 愈刺鍼				愈刺鍼によりどのように脈が変化するかを診ることができる。				
7	確認テスト				確認テストにより、知識・技術の定着をはかる。不足を補うことができる。				
8	腹診基礎				東洋医学における腹診の意義を理解し正しく触診ができる。				
9	腹診と病症				腹診による配穴、刺鍼によりどのように変化するかを確認することができる。				
10	体質の診察と証立て				「証」と「症」の違い、体質と証の関係を理解し証立てすることができる。				
11	体質の診察と証立て				「証」と「症」の違い、体質と証の関係を理解し証立てすることができる。				
12	臨床応用①				学習してきたことを駆使し臨床応用ができる。				
13	臨床応用②				学習してきたことを駆使し臨床応用ができる。				
14	臨床応用③				学習してきたことを駆使し臨床応用ができる。				
15	期末テスト 振返り				診断・治療・記録までの一連の流れを行うことができる。				
〔評価について〕 評価は学則規定に準じて行う。					〔特記事項〕				